

## 農業と環境（水稲栽培）

### 苗の準備

#### 緑化・硬化（りょっか・こうか）

発芽器で温度をかけて発芽させた苗を、発芽器から出し、弱い光にあて葉緑体を少しずつ活動させ、苗を徐々に緑色にすることを「緑化」といいます。また、発芽器から出して、外の環境に少しずつ慣らしていくことを「硬化」といいます。

※ 箱入り娘で世間知らずを、少しずつ世の中に慣らしていくのと同じです。



発芽器に入れ、4日後の状態  
白いものが、水稲の芽です。



発芽器の中で光が当たらない状態で発芽しています。葉緑体が活動していないため芽の色は白色です。

※ もやしが白いのも同じ理由です。

十分な状態なので「緑化」「硬化」をします。

※ 通常は、そのままハウスで管理をしますが大子では「プール」という施設を利用します。「プール」はビニールハウス内に文字通りに小さなプールを作った施設です。その中で「緑化」「硬化」などの管理を行います。これは、大子の寒暖の差による遅霜の害から苗を守るための施設です。清流でもこれを利用します。

## ① プールの準備



清流の「プール」です。複数年利用していますので、汚れています。苗を移動する前にプール内を水洗いします。



「ダコニール1000」(消毒薬)を動力噴霧器を利用して噴霧し、プール内の殺菌を行います。苗は弱いので細心の注意を払っています。

## ② 苗の移動



プール内に苗を移動させ並べます。この際に、隙間なく並べてしまうと散水・プールへの注水作業が難しくなるので注水用の隙間を作るとよいです。



隙間

### ③ 緑化

育苗器から出したばかりの苗は白く非常に弱いので、最初から強い光にあててしまうと焼けて枯れてしまうことがあります。そこで、裏地が不織布の遮光布(清流では「シルバーラプ」を利用)でプール全体を覆い、通気はするが遮光を行うことで苗の焼けを防いでいます。

風でシートが飛ばないように、周囲を洗濯ばさみで押さえておきます。

数日置けば、苗は弱い光により緑色になります。葉緑体が十分に働ける状態になれば、シートを外し「硬化」を行います。



### ④ 硬化

プールに移動して3日後には苗全体が十分緑色になったので、シートを外し、硬化に移ります。

硬化は、苗を十分に大きくすることと、外の環境下でも成長できる丈夫な状態にすることが重要です。ですが、最初は弱いのでハウスの温度管理をサイドの窓の開け閉めで調整する。



「硬化」初日の苗の状態

